

2022年4月25日 守門岳 1537.3m 朝倉

守門岳の山頂はそこだけ雪が解けていて中央には山座同定のための円形の方位盤があった。平が岳や会津駒ヶ岳も記されていたがこの日は晴天にも関わらず黄砂の影響で遠くの山々は霞んで判然としない。雪を豊富に残した山が周りを取り囲んでいるが特に南方面は山が重畳として連なっている。越後三山がことのほか立派だ。明日登る予定の浅草岳はその左手前に近い。

守門から大岳に続く稜線に発達した雪庇を見ることを楽しみにしていたが、それらはすべて崩落していて願いは果たせなかった。

あちらこちらに縦方向に走るクレバスがのぞいていた。最初は遠巻きにしていたが、そのうち中を覗き込んだり、つながっている部分を乗り越えたりもした。山全体が雪をまとうっておりそれはしっかりと締まっていた。日当たりのよい稜線の登山道はたまに雪解けして本来の登山道をのぞかせていたがその道の土が登山靴を汚した。そのような個所ではイワウチワが桜色の花を開いていた。

この時期は残雪に新緑の映える見事な光景に出会える。様々なトーンの緑色が重なりあって山腹を彩っている。登山口あたりからは山毛櫨の芽吹きの新緑が瑞々しい。そこに濃い杉が混じったりする。中腹あたりまで登るとほとんど山毛櫨帯となり芽吹いたばかりの若葉は褐色の広がりとなっている。雪面にはそれまでその若葉を包み守ってきた外皮が無数に散らばり雪の色さえも褐色に変えていた。

私は急な斜面をあえぎあえぎ登っていた。雪面の大きさに圧倒される。対岸の尾根の沢には崩落した雪の塊が無造作に落下している。斜面の山毛櫨の林立した幹の周りにはそこだけ雪が解けて円形に穴を掘り下げている。上部まで来ると山毛櫨はまだ雪に埋まっている枝もあり芽吹きはこれからの様子。

下山は今シーズン最後の雪を楽しみながらゆっくりと下って行った。

コースタイム： 二分 5:20—6:00 猿倉橋—11:00 大岳分岐—11:40 守門岳 12:00—12:25 大岳分岐—14:40 二分